

原子力規制委員会委員長

田中 俊一 様

7月29日の話し合いを踏まえた川内1・2号審査書案に関する緊急申し入れ

原子力規制委員会・規制庁と私たちとの7月29日の話し合いは非常に実り大きいものでした。そこで明らかになったことを踏まえ、緊急に以下の内容を申入れます。真摯にご検討くださるようお願い申し上げます。

1. 原子力安全基盤機構JNESが2001～2009年の報告書で算出していた地震動＝「M6.5の横ずれ断層による震源近傍で1340ガルの地震動」(図1参照)を「震源を特定せず策定する地震動」として取り入れてください。

(説明) JNESの報告書は、2006年の耐震指針改定時に「震源を特定せず策定する地震動」として採用された加藤ら(2004)の「上限レベル」における元データが極めて少なく、他の地震データを除外した「予め予測できる」とする根拠も薄弱であったことから、地震観測記録の不足を断層モデルによる地震動評価で補充するため、また、参照すべき年超過確率曲線(ハザード曲線)を導出するために行われたものでした。規制庁は当初、「仮想の地盤での仮想の地震発生による地震動評価」だと主張していましたが、その地震動評価が仮想のもので使い物にならないのであれば、その結果として得られる超過確率も使えないことになり、矛盾します。また、アスペリティ応力降下量と高周波遮断特性について「平均±σ」のバラツキを考慮していますが、これはごく普通に起こりうる範囲内のゆらぎにすぎず、「極めて起こりにくい特殊な例」ということにはなりません。規制庁も、最後には「低い確率ではこういう地震も考えられる」と認められました。ところが、「この地震動は実際にはまだ起きていない」という理由で取り込みを拒む一方、「実際に起こった地震の観測記録についてはそれぞれのサイトの特性を踏まえたうえで、取り込む必要があるものについては取り込む。」とされました。これでは、「自然の後追い」です。これまで基準地震動が5回も乗り越えられましたが、自然が新たな基準地震動を乗り越えるのは時間の問題でしょう。それでは遅いのです。福島第一原発重大事故の教訓を何ら真摯に受け止めようとする姿勢です。M6.5の見えない小さな地震による1340ガルもの地震動の発生を警告する評価結果が規制庁の手元にあるのですから、それを無視しないでください。「震源を特定して策定する地震動」でも、実際には起きていない仮想の地震について地震動評価をしているのですから、同様に扱うべきです。

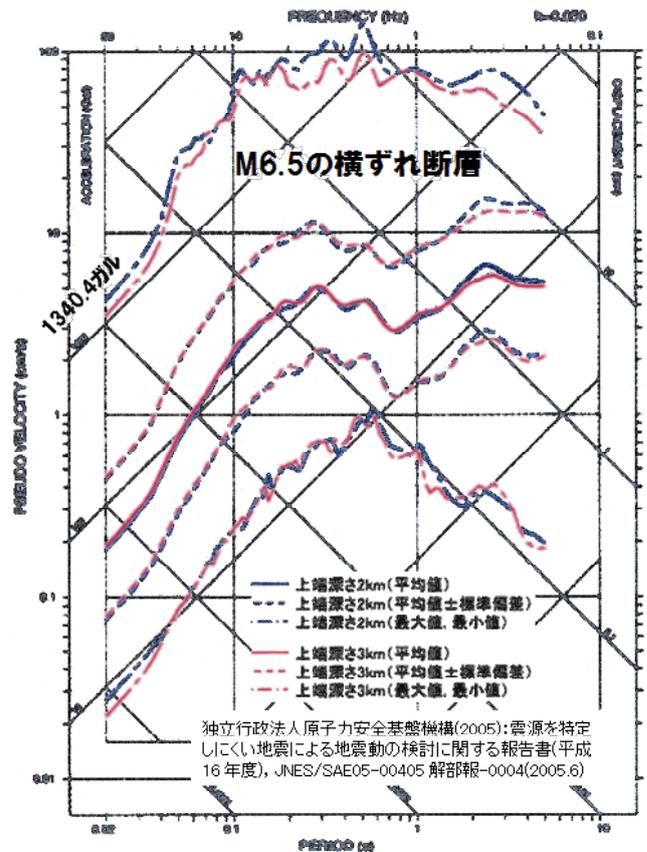


図1. 横ずれ断層モデルM6.5による地震動評価結果

($V_s=2600\text{m/s}$ の地震基盤表面上に設定した231評価点における各周期ごとに求めた地震動応答スペクトルの平均値、標準偏差、最大・最小値であり、特定の評価点での応答スペクトルではない。「最大値」は、アスペリティ実効応力「大」、高周波遮断特性「平均+標準偏差」の場合である)

評価結果が規制庁の手元にあるのですから、それを無視しないでください。「震源を特定して策定する地震動」でも、実際には起きていない仮想の地震について地震動評価をしているのですから、同様に扱うべきです。

2. 川内1・2号の周辺活断層による地震動評価について、「アスペリティ平均応力降下量25.1MPa」を「基本ケース」とし、その上で、断層上端や応力降下量などの不確かさを考慮するようにやり直してください。

(説明) 九州電力は1997年5月13日鹿児島県北西部地震の地震モーメントを数ある数値の中で最も小さい値にしてアスペリティ平均応力降下量を15.9MPaと設定しています。しかも、この未飽和断層に対する評価結果をそのままM7.2～7.5の飽和断層に用いています。その結果、図2のように断層モデルによる地震動評価結果が耐専スペクトルの1/2～1/3に留まっています。私たちは、要素地震の地震モーメントにthe Global CMT projectの値を採用しているのだから、1997年5月13日鹿児島県北西部地震の地震モーメントにも同機関による値を採用し、アスペリティ平均応力降下量を25.1MPaに設定すべきだと主張してきました。規制庁は表向き、これを全面拒否しながら、ヒアリングの場でこっそり、25.1MPaのケースを計算させていました。規制庁は長周期側の地震動の確認だと主張していますが、このような姑息な対応をやめ、アスペリティ応力降下量を25.1MPとする断層モデルを「基本ケース」として、さらに不確かさを考慮するように地震動評価をやり直してください。

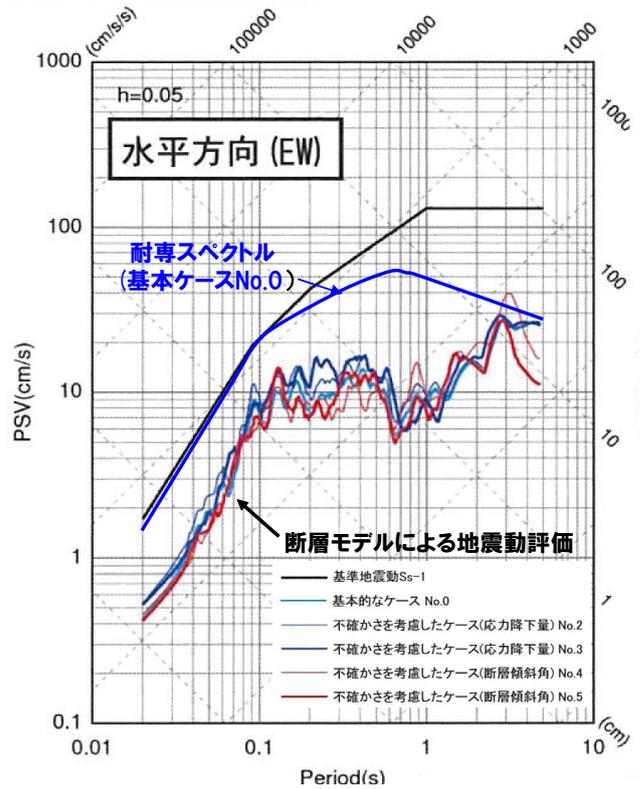


図2. 市来断層帯市来区間の耐専スペクトルと断層モデルによる地震動評価結果の比較

3. 耐専スペクトルを早急に再構築し、新たな耐専スペクトルで地震動評価をやり直してください。

(説明) JNESは図3のように、縦ずれ断層による地震動評価結果を耐専スペクトルと比較して、等価震源距離で20km程度離れた「平均値」ではほぼ同等だとする一方、震源近傍(図3の「最大値」)では耐専スペクトルは断層モデルの1/2～1/5にすぎないことを示しています。規制庁もこれを認め、耐専スペクトルを作った日本電気協会が見直しを進めていることを明らかにしました。JNESを統合した規制庁でも、研究部門で地震動の研究を引き続き続ける意向です。そうであればなおさら、最近20年間の震源近傍の地震観測記録を取り込み、JNES報告書などで震源近傍での観測記録の不足を補い、耐専スペクトルを再構築し、審査をやり直すべきです。その際、耐専スペクトルには「倍半分」の偶然変動によるバラツキを考慮して、2倍の「余裕」を持たせるべきです。

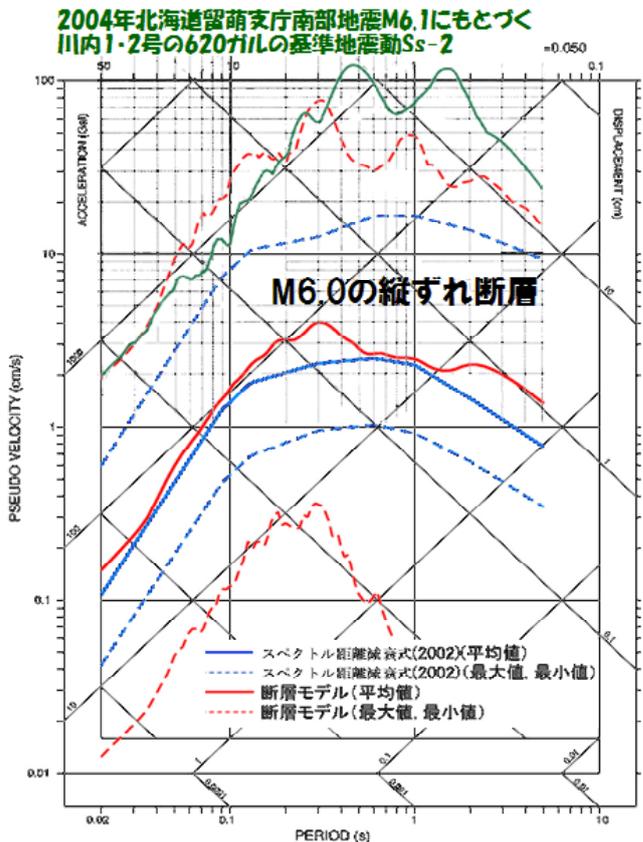


図3. 北海道留萌支庁南部地震M6.1に基づく川内原発の解放基盤表面はざとり波および耐専スペクトル(内陸補正後、図中では「スペクトル距離減衰式(2002)」と記載)と縦ずれ断層モデル(地震発生層3～20km)による地震動評価結果の比較(M6.0)

4. 田中委員長が鹿児島県民や薩摩川内市民に直接、審査書案を説明し、地元住民の声を聞いてください。

(説明) 田中委員長は「安全とは申し上げない」と何度も公言し、規制庁も「事故が起こる可能性は否定しない」と回答しています。9月29日の話し合いに鹿児島から参加した方は「安全を保証できないのにどうして地元自治体に報告できるのか」と規制庁に迫りました。また、規制庁は「安全目標をクリアできているかどうかは審査しておらず確認していない」としていますが、「鹿児島県知事は住民への避難説明会で、100万炉年に1回の安全目標があるという資料を示しており、おかしい」と指摘しています。原子力規制委員会は「安全」を保証せず、事業者に安全の第一義的責任を転嫁し、政府は「安全のお墨付き」を原子力規制委員会に求め、自らは再稼働の判断をしません。九州電力は国に「再稼働の合意形成」を求めています。こんな無責任な状態で川内原発が再稼働へ突き進むのは誰もがおかしいと疑問を呈しています。川内原発の審査書案を決定した最高責任者として、田中委員長自ら地元へ説明に出向き、地元住民の声を聞き、直接対話すべきです。

以上

添付資料:原子力規制委員会(原子力規制庁)との交渉記録

呼びかけ団体:川内原発建設反対連絡協議会、川内つゆくさ会、反原発・かごしまネット、まちづくり県民会議、川内原発活断層研究会、東電福島原発事故から3年一語る会、さよなら原発:アクションいぶすき、原発ゼロをめざす鹿児島県民の会、かごしま反原発連合有志、原子力発電に反対する福井県民会議、サヨナラ原発福井ネットワーク、原子力資料情報室、若狭連帯行動ネットワーク(事務局担当)

賛同団体・個人(2014.7.28現在100団体、483個人)

[北海道] 山内恵子、林昌樹、久保あつこ、安田浩行
[青森] 核燃サイクル阻止一万人訴訟原告団、浅石紘爾「岩手」三陸の海を放射能から守る岩手の会、永田文夫、
[福島] 双葉地方原発反対同盟、社民党福島県連合、福島県教職員組合郡山支部、石丸小四郎、佐藤龍彦
[宮城] みやぎ脱原発・風の会、館脇章宏、篠原弘典
[新潟] 柏崎原発反対刈羽村を守る会、脱原発をめざす新潟市民フォーラム、中村哲也、武本和幸、武田貞彦
[東京] すなめりの会、原子力資料情報室、日本消費者連盟反原発部会、ふえみん婦人民主クラブ、ストップ原発&再処理・意見広告の会、東京電力と共に脱原発をめざす会、安達由起、斉藤美智子、山口泰子、伴 英幸、西尾 漢、松久保肇、谷村暢子、吉岡香織、松井芳子、樋山節子、山本晶子、湯浅欽史、小川幸子、島京子、唐津八千代、小玉修三、高木章次、富山洋子、澤井正子、星川まり、郡山昌也、田中一郎、澤井正子、古荘暉、古荘斗糸子、玉城敬子
[神奈川] 小沼智子、岡村孝子、下山久美子、熊坂兌子、岩田深雪
[千葉] 魚住公成
[茨城] 反原子力茨城共同行動、根本がん
[埼玉] 細谷 孝、野口久枝、稲月 隆、栗原裕司、くまがいマキ
[静岡] 東京電力と共に脱原発をめざす会、原発震災を防ぐ風下の会、太田川ダム研究会、なくそう浜岡原発天竜の会、自然エネルギー推進・静岡県東部の会、三島ふ

れあいユニオン小池泰子、堀 考信、粕谷たか子、西原幸子、東井 怜、古浦勝久、長野栄一、塩崎恵子、落合明夫、下山久美子、岡本 尚、松谷清

[長野] 伊藤 順、西村悦子

[愛知] 核のごみキャンペーン・中部、安楽知子、岡田雅宏、吉川 守、村上鐘清

[富山] 川原登喜の

[石川] 志賀原発を廃炉に！訴訟原告団、原発震災を案じる石川県民、北野 進、堂下健一、岩淵正明、中田博繁、奥村回、橋本明夫、北尾美帆、川本藏石、川本 樹、中垣たか子、斎藤繁

[福井] 原子力発電に反対する福井県民会議、サヨナラ原発福井ネットワーク、株式会社森と暮らすどんぐり倶楽部、石地 優、松下照幸、山崎隆敏、田代牧夫、中嶋多恵子、若泉政人、石森修一郎、笠原一浩、芦野順介、大西真治、宮川和子、西浄由起夫、杉原厚子、

[京都] 京都原発研究会、山田耕作、尾崎一彦、吉武仁貞、田中康司、田中順子、大津定美、坂和優、岩佐彰人

[滋賀] 滋賀県放射性チップを告発する会、池野正治、西村廣宣、白永昇次、下村俊彦、更家周子、宮地英紀

[大阪] 原発やめよう／つながろう関西・マダム会議、脳性まひ者の生活と健康を考える会、科学技術問題研究会、労働組合なにわユニオン、ノーニュークス・アジアフォーラム・ジャパン、どこまでも9条の会、大阪此花発！STOPがれき 近畿ネットワーク、全日本港湾労働組合関西地方大阪支部、平和と民主主義をめざす全国交歓会、ストップ・ザ・もんじゅ、福島の子もたちを放射能から守ろう・関西、原発ゼロ上牧行動、STOP原子力★関電包囲行動、みらくる∞未来を創るにんげんアクション、9条改憲阻止共同行動、ヒバク反対キャンペーン、若狭連帯行動ネットワーク、地球救出アクション97、チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西、子どもたちを放射能から守る大阪ネットワーク、国際女性年連帯委員会、風を起こす女の会、大阪東南フォーラム平和・人権・環境、環境フォーラム市民の会(豊中)、日本消費者連盟関西グループ、小西妙子、高井千彰、小川亮、色見勝徳、白木原雄、乾 清之、戸田

寛、戸田 剛、田辺秀作、寺西久雄、松野尾かおる、高橋もと子、中井かをり、前田由隆、長沢啓行、長沢由美、久保きよ子、久保良夫、定森和枝、山崎清、稲岡美奈子、稲岡宏蔵、猪又雅子、原 三郎、三田宜充、三田恭子、金澤知成、黒石昌朗、太田陽子、森田悦子、曾我部玲子、中野陽子、須波あゆみ、柳内ちよ子、花立和代、足立須香、山口直子、立花善子、陰山みどり、八瀬宗子、高木永貢子、上松治美、桃田恵子、寺西久子、中井久子、中井のどか、北川芳美、野澤八千代、田中一成、木村英生、山本ゆき、木村洋子、康 由美、長澤民衣、富士野佐和子、大山裕喜子、山本次子、陶山喜代子、岸上知三、中沢浩二、中山一郎、服部良一、中澤和子、三好龍孝、荒木淳子、土代 武、出来秀人、堀田雅代、松尾哲郎、山田 肇、瀧石雄介、中野晴久、平見 毅、山本光子、松尾和子、奥村剛子、重松信子、林田 史、春木博美、中野正史、門林洋子、山崎憲成、坂元千賀子、遠藤慎夫、北阪英一、疋田真紀、鎮西節子、山本英子、東野セツ、木下佳子、松永節、松本郁夫、鴨井憲雄、鎌橋照子、三輪佳子、胡桃沢伸、永田洋子、相川直美、杉村尚子、石川豊子、福井 浩、山下慶喜、房本晃、三上一子、秋山佳世、宗博文、春日直樹、黒石昌朗、川嶋澄夫、山口喜彦、古橋雅夫、増田直美、黒河内繁美、黒河内正行、山崎一典、衛藤ますみ、田中 徹、仰木 明、堀本フミ子、永久睦子、鈴木隆史、大森正子、難波希美子、水野和子、牛田 等、向井千晃、畑 章夫、増田京子、鈴木くみ子、滝沢厚子、山口光枝、森本良子、松田耕典、大伴一人、杉村ルミ子、池田春海、大野ひろ子、八木 稔、平松清司、平松重美、藤谷卓志、藤谷悦子、竹本明代、武慎太郎、美佐田和之、平尾貞之、若本洋子、花木弘子、森 由子、森 賀代、今木誠造、富田洋香、富田茂樹、稗田 滋、大石恵子、田中たけよし、吉田美恵子、野口たい子、高木宏子、鈴木めぐみ、林田 史、和田幸子、村上ひとみ、井上和歌、吉井正代、山崎隆生、北村純男、稲村隆生、稲垣一美、大畑喜一郎、佐野米子、佐野正文、斎藤直樹、斎藤英美子、韓基大、寺澤亘、黒田雅一、橋野高明、米澤興治、樋口多佳子、野口紀恵、野口嘉孝、矢歌淳子、春日久美子

[兵庫] 原発の危険性を考える宝塚の会、さよならウラン連絡会、安全食品連絡会、鈴蘭台食品公害セミナー、現代を問う会、神戸YWCA平和活動部、さよなら原発神戸アクション、原発をなくそう芦屋連絡会、建部 暹、喜岡笠子、北川れん子、喜多康夫、高橋智子、竹本衣江、富樫章、振津かつみ、中川慶子、奥田 亮、北田万寿夫、田中章子、井上正弘、稲垣清美、辰野純子、山崎昌子、梶原義行、中井 忠、森 妙子、小林まゆみ、津村富代、寺西清、味村良雄、北川 諭、小谷美智子、立間節子、石田加代、中村雅子、板垣正行、中原一栄、丸尾牧、木村英子、赤塚弘美、今井和雄、松原康彦、八木和美、村田三郎、井上保子、村上玲子、高橋武三

[奈良] 奈良脱原発ネットワーク、反原発奈良教職員の会、さよなら原発北葛の会、さよなら原発生駒、川崎寛子、田中正和、岩佐元春、梅谷敦子、加藤義明、金丸知佳、井上智絵、三宅恵子、野澤七雄、足立嘉代子、菅原紘美、松尾富雄、榎本恭一郎、旭 幸美、平岡敏幸、野口夏紀、山本万知、窪田義廣、中村優衣、山口花織、西

林紗紀、大川雅博、辻和将、篠原章二、村橋香美、坂下智子、若松未来、橋本 繁、保浦公夫、堀田美恵子、住吉純子、中西克至、上島 博、二階堂裕之、熊谷千栄子、見田暎子、鈴木恵美子

[和歌山] 脱原発わかやま、寺井拓也、内海洋一、田中美津子、上平正子、泉 正、

[島根] 島根原発増設反対運動、島根原子力発電所3号機の運転をやめさせる訴訟の会、芦原康江、阪本 清

[岡山] 小林秀朗

[広島] 原発はごめんだヒロシマ市民の会、市民SOHO蒼生舎、みどり福山、ヒロシマ・エネルギー・環境研究室、木原省治、溝田一成、脊尾昌弘、さとうしゅういち、坂田光永

[山口] 原発いらん！山口ネットワーク、三浦翠、小畑太作、上里恵子、山戸貞夫

[愛媛] 阿部悦子と市民の広場、原発さよなら四国ネットワーク、原発さよならえひめネットワーク、原発なしで暮らしたい松山の会、愛媛の活断層と防災を学ぶ会、放射能を憂慮する市民の会、農薬空中散布に反対する会、愛媛環境ネットワーク、伊方原発反対八西連絡協議会、八幡浜・原発から子供達を守る女の会、伊方原発をとめる会、阿部悦子、小倉 正、垂水正和、垂水栄子、近藤 誠、大野恭子、渡部伸二、古茂田知子、土居立子、大本光子、井出久司、松尾京子、谷口博徳、斉間淳子

[高知] 植村和暢、植村厚子、松本高子、

[福岡] 荒木龍昇、足立力也

[長崎] 歌野礼、歌野敬、歌野啓子、森崎竜一

[宮崎] 宮崎の自然と未来を守る会、青木幸雄、鶴内敏之、小川渉、日野原義文

[鹿児島] ピース・アクト出水、天文館アトムズ、川内原発建設反対連絡協議会、川内つゆくさ会、まちづくり県民会議、川内原発活断層研究会、反原発・かごしまネット、まちづくり県民会議、東電福島原発事故から3年一語る会、さよなら原発:アクションいぶすき、原発ゼロをめざす鹿児島県民の会、かごしま反原発連合有志、ささえあいネットATLAS、荒武重信、有馬和子、安藤成子、小川 彰、小川美沙子、川畑一勝、北島清仁、小藺元子、小原治代、城 眞理、城下義博、嶽釜百合子、田中ひろみ、佃美喜子、外山一正、道免明子、鳥原禎一、鳥原良子、鳥原雅子、中俣貞子、馬場園征子、福丸のり子、堀之内しおり、松田勝美、松田良子、松山喜美子、三園敏則、武藤智子、村田明子、森永明子、山下勝次、山下美紀、若松静美、赤星悠子、井ノ上利恵、杉原洋、橋爪健郎、松元成一、向原祥隆、山中六江、福島直子、永池美穂、鮫島亮二、さめしまことえ、鮫島曜、鮫島乃絵、のぐち英一郎、八木純子、大久保文子、福崎富実子、福崎結子、今村重喜、図師博隆、橋野裕明、馬場慶郎、前園啓子、西藺典子、増尾良子、坂下孝、川路孝、徳満正守、池畑浩、松永明敏、松永三重子、道免芳隆、道免明美、中村進一、中村忍、中村一義、鳥越勇夫、平鉄臣、嶋田義輝 塚田ともみ、梅北優香、園山宗光、赤星秀一、有村晋治

連絡先:若狭連帯行動ネットワーク

久保 TEL 072-939-5660 dpmnm005@kawachi.zaq.ne.jp

長沢 TEL 072-269-4561 ngsw@oboe.ocn.ne.jp